

京劇の幻の名著 半世紀ぶりに刊行 : 濱一衛著訳 『中国の戯劇・京劇選』

中里見, 敬
九州大学言語文化研究院 : 准教授 : 中国文学

<https://hdl.handle.net/2324/19861>

出版情報 : きゅうとNEWSLETTER. 6 (2), pp.4-4, 2011-07. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

京劇の幻の名著 半世紀ぶりに刊行 — 濱一衛著訳『中国の戯劇・京劇選』

中里見 敬(言語文化研究院准教授)



『中国の戯劇・京劇選』
濱一衛 著訳、中里見敬 整理
(花書院, 2011)

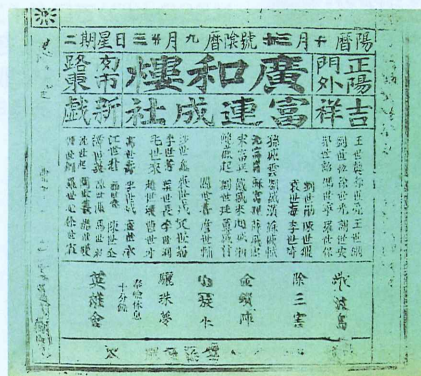
九州大学附属図書館には、元本学教授で中国演劇研究者の濱一衛(1909~1984)が1934~36年の北京留学中に収集した資料からなる濱文庫というコレクションがあります。私が書架の片隅に執筆後半世紀あまりも眠っていた濱先生の未刊原稿を手にしたのは、濱文庫の展示会を担当した一昨年のごとでした。

京劇の台本四種を翻訳した「京劇選」を読んで、その格調高い日本語に惹きつけられました。「霸王別姫」のように有名な歴史劇だけでなく、京劇の「とりすましたところがない」(本書319頁)大衆的なおもしろさを堪能

できる「打漁殺家」を入れるなど、硬軟取り合わせた4作品の選択の妙は見事というほかありません。京劇のきまりごとや俳優たちの逸話を懇切に説いた「中国の戯劇」を読むと、根っからの芝居好きだった濱先生に、京劇の見方を手ほどきしてもらっているような気分になります。伝統芸能はなかなか取っつきにくいものですが、濱先生の飄逸な語り口によって、私たちはすんなりと京劇の世界に入っていくことができます。

濱文庫受け入れに尽力された山合名譽教授によると、資料評価を

担当された東京大学の田仲一成教授(当時)が濱先生のご自宅を訪問された際、遺されていた原稿やノート類を見て是非とも文庫にいれましょうと言われたために、追加で保存することに決定したとのことでした。濱先生の幻の原稿が散佚することなく今日まで残されたのには、関係者の見識と図書館のご理解があったことに改めて敬意を表したいと思います。



濱文庫の戲單(芝居番付)より濱先生お気に入りの一枚
(1936年10月20日、広和樓、木活字版)[濱文庫/集181/ 4]

「今では活版か石版刷りですが、以前は木活の風雅なもので、つい七八年前迄は広和樓の番付がそれで、愉快なものでした。」
(濱一衛「支那芝居の話」[弘文堂書房, 1944] 170頁より)

※今回紹介した本は図書館に所蔵しています。